

else if 文

if の解説の時にほんの少しだけ触れましたが、else 内でさらに条件分岐させる方法で else if 文というものがあります。これについて解説します。

ゲームでも使うことになると思うので、ノーマルゼミだけで手いっぱいという方も目を通しておいてください。

➤ else if について

else if 文は if 文で条件を満たされず、かつ else if 文の条件を満たすときに実行されます。

```
if(条件文){
    文;
}
else if(条件文){    //上の条件に当てはまらず、この条件に当てはまる場合
    文;
}
else{    //ここより上の条件のいずれにも当てはまらない場合
    文;
}
```

このような形式でプログラムを 3 種類以上に分岐したいときに使います。実際のプログラムの例を見てみましょう。

```
#include<stdio.h>
int main(void){
    int a;
    printf("値を入力してください¥n");
    scanf("%d",&a);
    if(a>=100){
        printf("入力した値は 100 以上です。¥n");
    }
    else if(a>=10){
        printf("入力した値は 10 以上 100 未満です。¥n")
    }
}
```

```
else{
    printf("入力した値は 10 未満です。¥n");
}
return 0;
}
```

このように入力した値が 100 以上か、10~99 か、10 未満かに条件分岐することができます。if と else の間に else if は何回でも挿入できるので、3 通りに限らず何度でも分岐することができます。

似たような条件分岐に switch 文がありますが、今後詳しく解説するので今回は触れません。

➤ 追加問題

1. 正の数と負の数と 0 を判定してください。
2. 変数 a,b をキーボードから入力し、a と b の四則計算と a を b で割った時の余りを出力してください。
3. 変数 a を読み込み、奇数か偶数かを判定し、1 の位が 0 かどうかを判断するプログラムを作ってください。